

令和4年度の学校経営計画の達成状況等について以下の通り報告する。

1 本年度の最重点項目

- 児童・生徒が主体的に学べる環境設定「青山ベーシック」の構築
- 児童・生徒に自己肯定感、自己有用感を育ませるキャリア教育の推進
- 教職員の業務や職層に応じた、特別支援教育の専門性の向上
- 児童・生徒、保護者、地域から信頼される、安全・安心な学校

2 今年度の取組目標と具体的方策、数値目標等及び結果

【標語】 A：達成（目標以上） B：ほぼ達成（目標の90%以上）
 C：やや未達成（目標の80%以上90%未満） D：未達成（目標の80%以下）

(1) 学習指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	研究テーマ、アセスメント等に基づいた一人1回研究授業の実施と授業改善及び青山ベーシックの構築	対象者全員	A：全員実施
②	地域資源を活用した授業実践	各学部	A：伊藤忠商事、赤坂郵便局、図書ボラ、國學院大學陸上部他
③	発達段階に応じた指導の充実	全員	A：全員アセスメントを実施
④	外部専門員等を活用した指導の充実	各学部通年	A：各学部で授業改善を実施
⑤	東京都教育ビジョン及び「未来の東京戦略」等に基づいたICT機器等を活用した授業の充実	全員	A：全員が活用日/100台以上

(2) 生活指導・進路指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	児童・生徒一人一人に応じた適切な生活・進路指導	担任	B：学校評価保護者満足度 93%
②	事故ゼロを目指し、組織的な安全点検の実施と環境整備日の実施	月1回	A：毎月実施
③	スクールバスの円滑で安全な運行の徹底	連絡会毎月 研修会年2回	A：計画どおり実施
④	個々の実態に応じた一人通学に向けた状況把握と対応策の提案	全員	A：希望先への進路実現もあった
⑤	「青山のキャリア教育」に基づいた指導（通年/全員）	全員	C：学校評価保護者満足度 82%
⑥	地域や保護者と連携した防災訓練の実施と改善	防災委員会	A：毎月避難訓練宿泊防災訓練実施

(3) 特別活動・その他（安全・安心、健康づくり、地域交流等）

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	ガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策の徹底	全員	A：日々の教室等の清掃を実施
②	人権に配慮した教育活動の徹底（呼称、言葉遣い）、体罰、不適切な行為の撲滅	全員	A：毎月人権習慣を設定し、徹底
③	防災教育の推進及び危機管理マニュアルの改訂	随時	A：保護者へマニュアル配布
④	医療的ケア、アレルギー対応研修会及びマニュアルの改訂	各学期	A：必要に応じて随時実施
⑤	感染予防意識を高め、使用教室等の衛生管理	毎日	A：日々の教室等の清掃を実施
⑥	地域や家庭への理解啓発を促すための各通信等の発行（学校だより、進路だより、コーディネーターだより）	月／1回	B：概ね発行
⑦	近隣の小・中学校、高等学校との連携	各学部年1回	A：各学部で実施計7回
⑧	区教育委員会や地域指定校との連携による副籍交流の実施	実施率50%	C：45人
⑨	就学前機関（幼稚園・保育園等）との連携強化と指導・助言の実施	年30回	D：20回
⑩	ホームページの充実と本校の情報発信	随時 100回以上	A：更新回数 151回
⑪	外部人材を活用した図書の整理と図書室の有効活用	各学部	A：図書整備及び読み聞かせボランティアを活用
⑫	生活支援シート等を活用し、家庭、医療、福祉等の関係機関との引継ぎ連携	随時	A：随時実施
⑬	「TOKYOACTIVE PLAN for students」（総合的な子供の基礎体力向上方策）に基づくスポーツライフの推進	全員	A：12月ポッチャの日、1月マラソンの日を設定し、外部指導者を招聘し実施

(4) 学校運営・組織体制

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	結果
①	ミドルリーダーを中心とした円滑な学校運営と人材育成	各学部・分掌等／通年	B：主幹教諭、主任教諭の連携した学校運営
②	学校改善等に向けた、主幹会、企画調整会議の充実	週1回	A：毎週実施
③	P D C Aサイクルによる学校評価の実施	全員	A：次年度に向けた対応を組織的に実施
④	学部、分掌等の運営について組織的・効率的な実施、次年度に向けた改善	全員	A：学校評価を通じて実施
⑤	サービス事故防止研修、ヒアリング等による服務規律の徹底	年5回／事故ゼロ	A：計画どおり実施
⑥	管理職による教職員の時間外勤務の把握及び教職員の自己管理の徹底	45時間以下	B：毎月1割程度数値目標外
⑦	定時退庁日やマイ定時退庁日等の設定や会議等の工夫による働き方改革の推進	週1日	A：各自マイ定時退庁日を設定
⑧	効率的な会議運営等による働き方改革の推進	主幹教諭	B：書面開催等の実施

⑨	地域資源やTEPROを活用した業務効率の推進	主幹教諭	C：実現せず
⑩	適切な予算編成及び計画的な予算執行の徹底	センター契約75%)	C：66%
⑪	委託業者（給食調理、清掃業者）との円滑な連携	月1回開催	A：計画どおり実施し連携良好

3 本年度のまとめと令和5年度に向けた方針

(1) 本年度のまとめ

ア 全体

コロナウイルス感染症の対応の中、宿泊行事、保護者が来校する機会もでき、少しずつではあるが、教育活動が通常の形で実施できた年度であった。

学校評価（保護者評価）においても、今年度の行事や授業の実施に対し、肯定的な意見は前年度より9%増え、95%が肯定的な評価であった。

イ 学習指導（教育活動）

学習指導に関しては、学校評価（保護者）において、肯定的な評価の割合は、約95%であった。学部比較のデータでは、否定的な意見が高い学部があり、肯定的な割合は90%になってしまう学部もある。原因として、タブレット端末の導入、活用方法に意見があることがわかった。タブレット端末の1日平均使用台数は、2学期は70台前後であったが、3学期は100台以上使用しているなど、ほぼ全員が活用できている状況になってきた。教材としての活用等、より一層の充実を図っていく。

ウ 生活指導・進路指導

生活指導の項目に関しては、学校評価（保護者）約92%、進路指導の項目に関しては、学校評価（保護者）83%であった。生活指導においては、昨年度から実施している校内環境整備や不審者対応や遊出防止のための校門電子錠対応。毎月の避難訓練やスクールバスの安全運行の取組に加え、今年度新たに人権週間を毎月設定した。保護者の意見からは、取組が不明で判断できないという意見が、10%以上あった。

進路指導に関しては、評価の割合が他と比較して低い。判断できないという意見が一定程度あるのが主な原因である。学部別でみるとやはり低学年に多い。本校には「青山のキャリア教育」という冊子がある。3学期の個別面談前に実施した職員連絡会では改めて、キャリア教育について共通理解を図った。教員が児童・生徒一人一人に応じたキャリア教育を保護者に丁寧に説明することが重要であると考える。

生活指導、進路指導共に本校の取組について、説明責任を果たしていく必要がある。

エ 特別活動・その他（安全・安心、健康づくり、地域交流等）

コロナ対策、施設設備の整備、保健に関することや交流等については、学校評価（保護者）95%と高い評価であった。アレルギー対応等の事故は0件であった。引き続きアレルギー対応や医療的ケアの確実な実施とガイドラインに沿った感染症対策を徹底し、担当組織を中心に組織的に取組んでいく。

地域交流に関しては、今年度、青山小学校との交流において、双方向で行き来をする交流が実現した。

スポーツライフの推進においては、ボッチャの日とマラソンの日を設定し、ボッチャのスポーツ指導員や国学院大学の駅伝選手とスポーツ交流を図る機会を設けた。

人権に配慮し、安心・安全に学校生活を送れる環境をさらに整えるとともに、地域との交流も充実させていく。

オ 学校運営・組織体制

学校評価では、「家庭と学級との連携は密にとれており、連絡帳や個別面談では、自由に発言できる雰囲気がある。」という質問に対し、肯定的評価が98%。「学校教育活動全般に対して満足している」では、99%の高い評価であった。来年度、開校10年目を迎え、開校当時全校児童・生徒92名でスタートした本校は、現在150名となった。組織的な人材育成や業務の効率化など課題があるが、教職員の心身の健康を守るとともに、学校としてのコンプライアンスを果たしていく。

4 令和5年度の方針 ～開校10年目を迎えて～

これまで本校が培ってきた教育と昨年度の取組を継続するとともに、学校評価からの提言を生かし、以下を重点として、学校経営及び教育活動等の改善・充実を図っていく。

ア 児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進とICTの活用

- ・日々の授業実践と校内研究の実践を柱とし、個々の教員と学校全体の教育力の向上を図る。
- ・GIGA 端末などの ICT 機器を積極的に活用し、児童・生徒が主体的に活用できるよう指導の充実を図る。
- ・個別面談等で保護者への説明や聴き取りなど連携して更なる充実を図る。

イ 家庭や行政、医療機関などの関係機関と連携した指導の推進

- ・毎月の安全指導日を活用した、挨拶、身だしなみなど、児童・生徒への生活指導に関わる基本的な生活習慣を確立する。
- ・ガイドラインに沿った感染症対策の徹底や児童・生徒の発達の状況や課題に対し、家庭、学校医、主治医などの医療機関、地域関係機関等と連携し安全で、安心した学校生活を送ることのできる環境を整える。

ウ 児童・生徒一人一人に応じたキャリア教育の充実

- ・校内で「青山のキャリア教育」について共通理解を図り、個別面談等において説明を果たしていく。
- ・高等部設置校と連携し、研修会を充実させるとともに、保護者向け講演会を実施する。
- ・キャリア教育の視点から学校生活支援シートや個別指導計画へ反映させる。

エ 高い人権感覚に裏打ちされた安全・安心な教育活動の推進

- ・人権感覚を高めるために、毎月第3週を人権週間に設定する。
- ・「青山ベーシック」の確立を図り、安心安全な教室環境をベースに、主体的に活動できる教室空間となるよう工夫する。
- ・地域関係者と連携や毎月の避難訓練を実施する中で、防災意識の向上を図る。

オ 自己肯定感や自己有用感を育む教育活動の推進。

- ・地域資源を活用した教育のさらなる充実を図る。(伊藤忠商事株式会社、都立青山霊園等)
- ・地域の小・中・高等学校や高齢者施設との交流及び共同学習を推進する。
- ・各区教育委員会や小・中学校と連携した副籍を充実する。

カ 教職員が働きやすく、笑顔と活気のある職場環境の整備

- ・児童・生徒が安心して通い、保護者が安心して本校に送り出すことができる学校と同時に、教職員のライフワークバランスを推進する。
- ・業務の効率化を図るとともに、教職員の声を反映できる環境を設定する。